

神戸港

4年連続増、過去最多

港勢回復、4%増の292万TEU

17年コンテナ

【関西】神戸市みなと

総局が24日発表した神戸港の2017年コンテナ取扱量（速報値）は前年比4%増の291万7000TEUと、4年連続の増加を記録。これまで過去最多だった阪神・淡路大震災前年の1994年実績（291万6000TEU）を上回った。

久元喜造市長は同日会見し、「13年からコンテナ貨物総取扱個数は毎年10万TEUずつ増加し、17年は最多記録を更新。港勢回復を印象付ける結果となった。阪神国際港湾会社設立など、国の本格的な支援も動き出した。18年は300万TEU達成



を自指す」と語った。写真

外貿コンテナは4%増の221万7000TEUで、震災以降の過去最高値を記録。また、内貿コンテナは6%増の70万TEUで過去最多となった。

外貿コンテナの内訳

は、輸出が3%増の118万4000TEU、輸入が4%増の103万3000TEU。内貿コンテナの内訳は移出が10%増の31万TEU、移入が3%増の39万TEUだった。

久元市長はコンテナ貨物の力強い伸びについて「西日本からの集荷では、13年末に68便だったサービスが18年1月には週101便に拡充。インセンティブ制度導入も、港勢の回復に寄与した」とした。

は輸移出入合計・空コンテナ込みで16年比13%増の1万4537TEUとなり、過去最多値を更新した。阪神港に接続する国際フェリーター航路開設などで利便性が向上、特に実入りコンテナの輸移出が大幅に増加した。

実入りコンテナの取扱個数は、輸移出が22%増の3877TEU、輸移入が1%減の5862TEU。出入り合計では7%増の9739TEUとなった。

高知港を外港展開する形で整備された高知新港は、コンテナ、バルク貨物のほかクルーズ客船の受け入れなど多目的な利用がなされている。コンテナ航路は日韓航路、日韓・日中航路、阪神港接続の国際フェリーター航路の3航路が就航する。20年度には港の近くまで高速道路が延伸される予定で、一層の利便性向上が図られる予定。港湾管理者の県は昨春秋に策定した第2期高知新港振興プランに基づきながらポートセールス活動を強化、コンテナ利用促進に注力する方針だ。